

山口県上関町での中間貯蔵計画の撤回を求める抗議・要請文

関西電力株式会社 社長 森 望 様

中国電力は8月2日、山口県上関町長に対し、上関原発予定地で使用済燃料の中間貯蔵施設建設の意向を伝えた。そして、この中間貯蔵は関西電力と共同で使用すると表明した。

私たちは、関電の上関町での中間貯蔵計画に断固反対する。計画を撤回するよう強く求める。

関電の管轄外の遠く離れた上関に、「中間」貯蔵とは名ばかりの永久的な核のゴミ捨て場をつくり、子や孫たちの将来の生命と生活を脅かすことは断じて許されない。

中間貯蔵は、原発の維持・継続のためのものであり、関電の管轄区域であろうと、他電力との共同であろうと、これに反対する。

関電の中間貯蔵計画は、これまでことごとく拒否されてきた。

関電は、和歌山県白浜町で中間貯蔵施設の建設を狙っていたが、「子や孫に核ゴミを残すな」と地元の強い反対が起こり、関西の運動も連携した。そして2019年12月18日、白浜町議会では核ゴミの受け入れを拒否する条例が可決され、関電の計画は拒否された。

次に、むつ市の中間貯蔵施設を東電等と共同利用する計画を立てたが、むつ市長に拒否された。

今年6月には、福井県内の使用済燃料のわずか5%をフランスに搬出する計画を発表したが、福井県内では「住民を愚弄するにもほどがある」と強い批判を受けている。

そして今回、中国電力の後ろに隠れながら、事実上は関電の使用済燃料の中間貯蔵を狙っている。中国電力の使用済燃料プールの保管量は67%と余裕があるが、関電のそれは82%とひっ迫している。年末までに中間貯蔵地点を確定するという福井県との約束を守れなければ、老朽原発3基（高浜1・2、美浜3）の運転停止が迫っており、今回の計画はこれを避けるためのものだ。

六ヶ所再処理工場の稼働の目途はなく、核燃料サイクルは事実上破綻している。「中間」貯蔵とは名ばかりで、半永久的に核のゴミ捨て場となる。上関原発は、計画から約40年がたっても、対岸の祝島をはじめ粘り強い反対によって建設の目途はない。交付金等の札束で中間貯蔵計画を進めることなど断じて許されない。

関電がやるべきことは、核のゴミ捨て場探しではなく、使用済燃料の発生を抑えることだ。そのため、まずは危険な老朽原発の運転を停止するよう強く求める。

要 請 事 項

1. 山口県上関町での中間貯蔵計画を撤回すること。建設のための調査も行わないこと。
2. 使用済燃料を増やさないために、まずは、とりわけ危険な老朽原発3基の運転を停止すること。

2023年8月7日

毎月26日ランチタイムに関電前に集まる女たち/ 日本消費者連盟関西グループ

脱原発へ！関電株主行動の会/ 避難計画を案ずる関西連絡会

(避難計画を案ずる関西連絡会の連絡先：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/
脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会)